

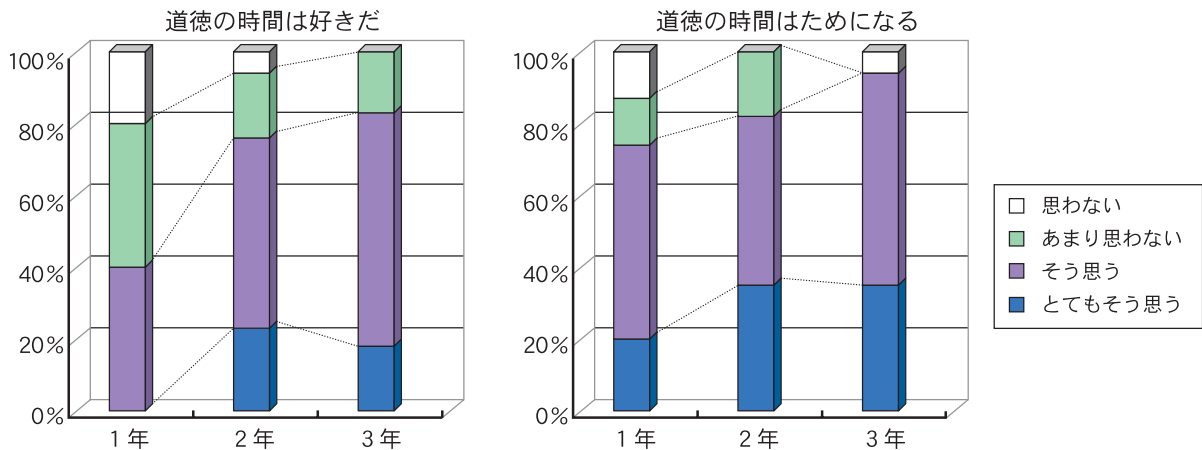
- 「授業がワンパターンで、先が読めて苦しい。」
- 「発言は多いが、授業に深まりが出てこない。」

そこで私たちは、先行実践や文献などを参考にしながら、できるだけ多様な指導に心がけた。しかも、担任以外の授業も加わることにより、生徒にとってはより新鮮味のある授業実践ができたと思っている。

ア) これらがどの程度の効果をあげたのか、その因果関係はつかめないが、生徒には次のような変化が現れた。

- ・ 授業が終わると、来週の時間にはどんなことをするのか聞きにきたり、保健室で「友情って何やと思う」といった会話が交わされるようになった。
- ・ 「生活記録」で、道徳の時間についてふれる記述が見られるようになった。
- ・ ワークシートの記述では、最初は書く量や、友達が何を書いたのかを気にしていたが、自分の心に向き合って記述するようになってきた。
- ・ 発言力のある生徒の意見は聞くが、他の意見は聞き流す雰囲気があったが、それぞれの思いを聞き入れようとする姿が見られるようになってきた。

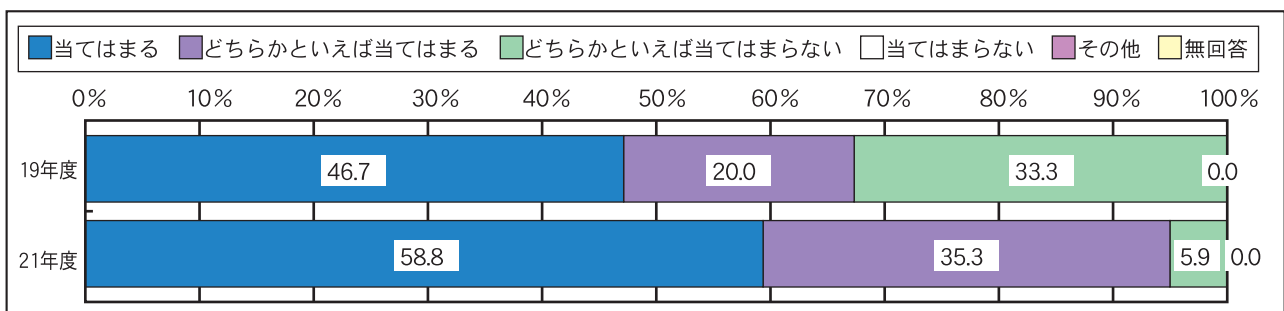
イ) もうひとつは、アンケート調査からである。(平成21年7月実施)



上のグラフのように、「道徳の時間は好きだ」「道徳の時間はためになる」という質問項目で、「とてもそう思う」と「そう思う」と答えた生徒の割合は、学年が上がるにつれて高くなっている。最初は、生徒が教師の気持ちを汲み取ってくれるほどに育った結果であり、数値の信憑性は低いと思っていた。しかし、21年度の全国学力・学習状況調査で得た教科のデータと比較すると、道徳の授業のマンネリ化少しはから脱却できたのではないかと考えている。

「〇〇の時間（勉強）が好きだ」	道徳	67.3%	国語	64.7%	数学	64.7%
「〇〇の時間（勉強）はためになる」	道徳	83.8%	国語	82.4%	数学	82.3%

なお、「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う。」という質問項目では次のような結果が出た。2年前の調査と比較して、意識面の高揚が見られた。



ウ) 「心のノート」と成長の実感

「心のノート」は、校内研修で使い方についての共通理解を図り、主に読んだり書き込んだりすることで、授業の導入や終末場面で使用した。「心のノート」のフレーズを紹介すると、生徒から「かっこいい!」という感想も聞かれた。また、全校集会や、国語、理科、社会科の授業などで「心のノート」を活用した。書き込みを見ながら、「前、こんな事書いたんや。なつかしい。」と、自分の成長を実感する姿が見られた。また、道徳の時間に使ったページを学級通信に掲載し、家の人にも読んでもらった。

本校の「心のノート」の活用として、保護者に心のノートを記入してもらおうということが特徴として挙げられる。「その日のこと」の記述は3-(2)の授業で主に活用した。自分が生まれてきた日の様子や周囲の反応を書いてもらい、授業の終末場面でそれぞれが保護者の思いに触れ、支えられ、守られている自分を実感することができた。授業後に一人ひとりが「心のノート」を大事そうにしまう姿が印象的であった。

エ) 家庭との連携と教育方針の共有

授業参観では、保護者にも授業に参加してもらった。生徒からは気づかなかった考えが出され、「大人の人の意見を聞くことができて良かった」と肯定的な意見が見られた。

また、道徳教育の取組や授業の様子を家庭に伝えるために、学校だよりや学級だよりを活用した。週に何度も作成するのは大変だが、学校の様子が分かるので良いという声が多く聞かれる。

また、部活動では、地域の指導者や保護者がつくる「親の会」が練習や練習試合、大会のサポート体制を組み、大きな成果を上げている。

(2) 課題

① 重点課題の指導

1年生の「いじめに関するアンケート」の結果では、「いじめ」を題材とした道徳の授業の直後には全員が「いじめはどんなことがあっても許されることではない」と答えている。しかし1ヵ月後のアンケート調査では、「いじめられる人も悪いところがある」と18%の生徒が回答している。このことは、成果が見られたとしても、一度の授業で心が育つものではないことを示唆している。

そこで、私たちは生徒会を中心に「いじめ追放集会」を開き、生徒会で宣言文を採択した。また、ゲストティーチャーを招き講演を聞くことで、「いじめは決して許されるものではない」ということを確認した。このように、重点課題については他の教育活動と関連を図りながら、計画的、発展的に指導したり、時期を見て何度も指導したりすることや、2時間続きで指導するなどの取組の工夫が必要である。

② 道徳的実践の場の保障

今年6月のアンケート調査において、「人の役に立つ人間になりたい」「人には親切にしたい」という項目で、「そう思う」と答えた生徒はともに98%であり、経年比較でもポイントは上昇している。しかしながら、「生徒会活動や学校行事などにおいて、学校の一員としての役割や責任をしっかりと果たしている」という項目では80%を下回っている。分かっているけどできない(しない)こともあれば、分かっていない場合もある。生徒の実態に応じて、全体計画や年間指導計画を見直し、他の教育活動と関連させ、意味づけをしながら実践を積み重ねていくことが大切である。